

=異文化理解や人材育成をテーマに講演会を開催しませんか=



公益財団法人かめのり財団

講演会 開催希望団体を募集

本財団では、アジアの国々との相互理解の促進やグローバル人材の育成を目的とした講演会の機会を提供します。

【講演会開催団体の募集について】

1. 《対象団体》 高等学校や大学、地方自治体、国際交流団体など。
2. 《開催条件》 会場の手配、会場の設営(演題、講師名の紙など)、スクリーン・プロジェクター・(パワーポイントが使用可能な)コンピューターの用意ができること。
講演会開催後、本財団広報誌への講演内容や感想についての寄稿、講演会の様子を撮影した画像の提供が可能なこと。聴講者へのアンケート(感想など)実施が可能なこと。
聴衆は主に青少年、教育関係者に限る。
原則、50名以上の集客が見込まれることを目安とする。
3. 《開催時期》 平成30(2018)年4月～平成31(2019)年3月
4. 《開催決定》 申し込み順に、開催団体の希望日と希望講師の日程を調整して決定。
* 開催団体数に限りがございますので、お断りする場合がございます。
5. 《演題》 「異文化理解」もしくは「人材育成」の必要性、を主なテーマとし、開催団体の意向を聞き、相談のうえ決定。
6. 《講演時間》 講演1時間、質疑30分の計1時間半を目安とする。
7. 《その他》 講師謝礼、交通費、宿泊費などは財団が負担。
8. 《申込締切》 平成31(2019)年1月末日。

【講師の紹介】

<王敏(ワン・ミン)>



法政大学国際日本学研究所教授(日中比較研究、日本研究、宮沢賢治研究)

1954年、中国河北省承德市生まれ。

大連外国語大学日本語学部を経て、四川外国語学院大学院で「宮沢賢治」に出会い、日本と日本人にも関心を抱く。文化大革命後、大学教員から選出の国費留学生として来日、宮城教育大学で学ぶ。お茶の水女子大学で人文科学博士号取得。在日30年。

中国優秀翻訳賞(1990年)、山崎賞(92年)、岩手日報文学賞賢治賞(97年)、受賞。文化庁長官(文化発信部門、09年)表彰。

【主な講演実績】

2017年10月 「比較という方法論から見た「日本・日本人」(ハノイ国家大学人文社会学大学)

2016年3月 「宮沢賢治と漢字と日本語と国際交流 -日中のお面比べ-」(北海道登別明日中等教育学校)

2015年2月 「『異文化交流の知恵』～驚きから楽しみへ～」(新潟 ハルビン友好市民の会)

【當作靖彦(とうさく やすひこ)】



1953年、北海道函館市生まれ。カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院修了。言語学博士。カリフォルニア大学サンディエゴ校教授。専門は第二言語習得理論と外国語教授法。

グローバル政策戦略大学院外国語プログラムディレクター、学部日本語プログラムディレクター。米国ナショナルスタンダードズ理事会日本語代表、米国日本語教育学会元会長など、米国における日本語教育の要職を歴任。著書に「NIPPON3.0の処方箋」(講談社)など多数。

【主な講演実績】

2018年6月「グローバル時代に期待される人材とは～地域創生のために～」(福井大学)

＜お問い合わせ、申し込み＞

(公財)かめのり財団「講演会係」

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-5 ベルヴェー麹町1階

電話:03-3234-1694 (平日 9:30-17:30) Fax:03-3234-1603

E-mail: info@kamenori.jp <http://www.kamenori.jp/>

＜公益財団法人かめのり財団とは＞

本財団は2006年4月に文部科学省の許可を得て設立し、2011年4月に公益財団法人となりました。財団名は、創設者・康本健守(やすもとけんもり)の父・亀範(かめのり)に由来します。韓国済州島出身の亀範は、1927年、18歳で日本に渡り、真摯な努力と誠実な人柄で、ゴム会社や賃貸マンション業を営む共立ビル株式会社を設立し発展させました。

共立ビル(株)を継いだ康守は、人とのつながりを大切にしながら、さらに香港やオーストラリアなど海外へ事業を拡大し発展させる中で、アジア・オセアニア情勢に深い関心を寄せるようになり、中国などアジアに広がる嫌日や、日本人のアジア・オセアニアに対する理解不足が、アジア、ひいては世界の平和・友好に重大な影響を及ぼしかねないと憂慮し、「日本を好きになってほしい、アジア・オセアニアをもっと好きになってほしい」と切望するようになります。そこで、「若い世代こそ自分の生活文化に固執することなく、新しい社会に飛び込んでいく勇気をもってほしい」と願っていた父・亀範の名を冠して当財団を設立しました。

＜財団の理念＞

日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、その懸け橋となるグローバル・リーダーの育成をはかります。

＜事業目的＞

高校生などの交換留学事業、日本語および日本文化学習の推進、青少年の民間交流助成等を中心に、日本とアジア・オセアニア諸国の若い世代の人々が、異なる文化や思考、生活習慣などをお互いに体験し理解し合うことができるよう、草の根の交流事業を支援します。そして、異文化の人と人をつなぎ、グローバルに活躍できる未来の担い手を育成します。